

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察予報について（送付）

このことについて、令和8年度（2026年度）病虫害発生予察予報第6号を発表しましたので送付します。

予 報

令和8年度（2026年度）病虫害発生予察予報第号（9月予報）

I 主要な病虫害の発生予想概要

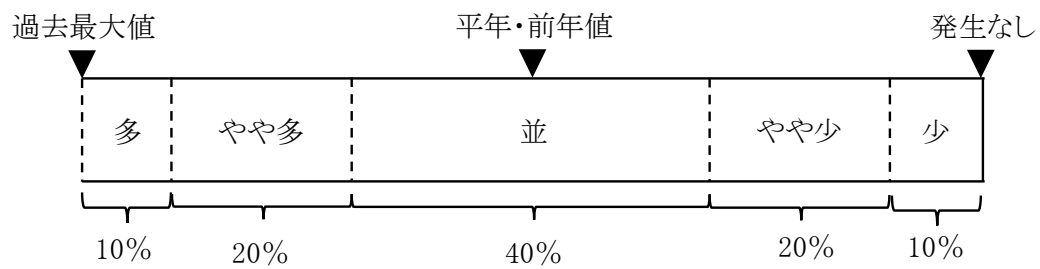
作物	病虫害名	8月の発生状況		9月の発生予想	
		平年比		平年比	前年比
水稻	いもち病 (穂いもち)	普通期 (葉いもち)	やや少	普通期	やや少
	紋枯病	普通期	やや少	普通期	やや少
	トビイロウンカ	普通期	やや少	普通期	やや少
	斑点米カメムシ類	普通期	並	普通期	並
大豆	ハスモンヨトウ		やや少	並	やや多
	吸実性カメムシ類		並	並	並
茶	炭疽病		やや少	やや少	少
	カンザワハダニ		多	多	多
	チャノキイロ アザミウマ		並	並	やや少
	チャノミドリ ヒメヨコバイ		並	並	やや少
	クワシロ カイガラムシ		やや少	やや少	並

作物	病害虫名	8月の発生状況		9月の発生予想	
		平年比		平年比	前年比
かんきつ	黒点病	並		やや少	少
	かいよう病	並		並	やや少
	ミカンハダニ	並		やや多	並
	チャノキイロ アザミウマ	並		並	並
なし	黒星病	やや少		少	並
	ハダニ類	やや多		やや多	やや多
	ナシヒメシンクイ	並		並	並
果樹全般	果樹カメムシ類	多		多	並
トマト	灰色かび病	夏秋作	やや多	夏秋作 並	やや多
	葉かび病	夏秋作	やや少	夏秋作 やや少	並
	すすかび病	夏秋作	やや少	夏秋作 並	並
	うどんこ病	夏秋作	並	夏秋作 並	やや多
きゅうり	べと病	夏秋作	並	夏秋作 並	並
いちご	炭疽病	育苗ほ	並	育苗ほ 並	並
	ハダニ類	育苗ほ	やや多	育苗ほ やや多	多
	アブラムシ類	育苗ほ	並	育苗ほ やや多	やや多
果菜類 (高冷地)	コナジラミ類	夏秋作	やや多	夏秋作 やや多	並
果菜類 (平坦地)	コナジラミ類	夏秋作	並	夏秋作 やや多	並
	アザミウマ類 (いちご除く)	夏秋作	並	夏秋作 やや多	並
野菜類全般	ハスモンヨトウ	やや少		並	並
	オオタバコガ	並		並	並

Ⅱ その他の病害虫の発生予想概要

部門	9月の発生予想	(作物) 病害虫名
	平年比	
普通作	並	(大豆) ベと病、葉焼病
茶	並	(茶) チャノコカクモンハマキ
	やや少	(茶) チャノホソガ
果樹	並	(かき) 炭疽病
野菜類	並	(トマト(高冷地)) 黄化葉巻病 (なす(平坦地)) すすかび病 (きゅうり(平坦地)) うどんこ病 (いちご) うどんこ病

※ 発生程度は平年（過去10年間の平均値）・前年と比較し多～少の5段階で示している。



Ⅲ 9月の主要な病害虫の防除対策と留意点

水稻

1) 共通事項

- ・各種トラップによるトビイロウンカとコブノメイガの誘殺状況や防除適期に関する情報を病害虫防除所ホームページの「水稻海外飛来性害虫情報」(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/0131112.html>)、葉いもち感染好適日の判定結果(BLASTAM)や予察灯による斑点米カメムシ類の誘殺状況を「調査データ」(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/0201915.html>)に掲載し、毎週更新するので、これを参考にほ場を見回り、早期発見、適期防除に努める。

2) 病害

- ・穂いもちは発生後の防除が困難であるため、ほ場を観察し、伝染源となる上位3葉に葉いもちの病斑が見られる場合は速やかに薬剤による防除を行う。防除は、穂揃い期までに行い、その後降雨が続く場合は、穂揃い期の7～10日後に追加防除を行う。
- ・紋枯病は高温・多湿の気象条件及び多肥や密植で発病が多くなる。特に、出穂期以降に高温・多湿が続くと上位葉鞘に病斑が進展するため、発生が見られる場合は防除を行う。

3) 虫害

- ・斑点米カメムシ類は水田畦畔雑草から侵入する。出穂10日前以降の除草は、本田への飛来を助長するので行わない。薬剤による防除は、アカスジカスミカメ等小型のカメムシが優占種の場合は穂揃い期に1回目を行うが、ホソハリカメムシやクモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ等が優占するほ場では、穂揃い期の3～7日後に1回目、2回目は1回目の7日後に行う。その後生存虫や新たな侵入が認められる場合は追加防除を検討する。
- ・トビイロウンカは、収穫30日前に10株当たり30頭を超えた場合は、直ちに防除する。

大豆

1) 共通事項

- ・病害虫防除所ホームページの「調査データ」(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/201915.html>)に掲載している各種トラップによる吸実性カメムシ類とハスモンヨトウの誘殺状況を参考に早期発見、早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

2) 虫害

- ・ハスモンヨトウに対しては、老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫の被害により白色化した被害葉(白変葉)が認められたら防除を行う。
- ・吸実性カメムシ類に対しては、開花終期から子実肥大期において、7～10日おきに2～3回の薬剤防除を行う。また、ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシに対するピレスロイド系薬剤(IRACコード:3A)の効果は劣るので、ほ場での発生種を確認して薬剤を選択する。

茶

1) 共通事項

- ・秋季の病害虫の発生は、翌年の発生に大きく影響するので、整枝と適期防除に努め健全な秋芽を確保する。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、主な対象に合わせた薬剤の選定及び系統の異なる薬剤のローテーション使用に努める。薬液が葉裏まで十分に届くよう規定量を丁寧に散布する。

2) 病害

- ・炭疽病の発生が見られた園では、秋芽生育初期から展葉に合わせた予防散布を徹底する。台風襲来が予想される場合は、細菌病（赤焼病）を適用対象に含む薬剤を選択する。

3) 虫害

- ・チャノキイロアザミウマ及びクワシロカイガラムシの有効積算温度シミュレーションによる各地の防除適期や、ハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺消長を病害虫防除所ホームページの「調査データ」(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/201915.html>)に掲載するので、これを参考に適期防除に努める。
- ・チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノホソガは、新芽や若い葉を加害するので、芽の生育に合わせ開葉期に防除する。複数の害虫を同時防除する際は、チャノキイロアザミウマを中心に散布のタイミングを図る。
- ・カンザワハダニの発生が平年より多くなると予想される（令和8年8月26日付け病害虫発生予察注意報第4号(<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/317832.pdf>))。多発してからの防除では十分な効果が得られないので、低密度時から薬剤防除を行う。
- ・チャノコカクモンハマキは、新葉・旧葉の区別なく発生するので、発蛾最盛期の7～10日後（若齢幼虫期）に薬剤散布する。

果樹

1) 共通事項

- ・各種トラップにおける果樹カメムシ類、ナシヒメシンクイの誘殺状況及びチャノキイロアザミウマの積算温度による発生予測を病害虫防除所ホームページの「調査データ」(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/201915.html>)に掲載し、随時更新するので、これを参考に園地を見回り、早期発見、早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、主な対象に合わせた薬剤の選定及び系統の異なる薬剤のローテーション使用に努める。

2) 病害

- ・かんきつでは、黒点病の保菌率が高い5～10mmの枯枝はせん除する。せん除後もそれらの枝は伝染源になるので、園外に処分する。薬剤散布は、前回の散布から累積降水量が200mm～250mmを越えた時期、または25日～30日経過した時期を目安にする。かいよう病に弱い品種では、台風接近時など強い風雨が予想される前に予防散布を行う。

3) 虫害

- ・平年より気温が高く推移しているため、害虫の発生も平年より早めに発生する可能性が高いので、発生状況をよく観察し、適期の防除に努める。
- ・ハダニ類が多発する前に殺ダニ剤による防除を行う。かんきつでは、ミカンハダニ雌成虫の寄生葉率が30～40%または寄生頭数が10葉当たり5～10頭、ナシのハダニ類では、雌成虫の寄生葉率が20%以上または1葉当たり1～2頭に達したら薬剤防除を行う。
- ・ナシヒメシンクイは、なし果実の成熟に伴い侵入量が急速に増加するため、成虫の発生盛期～10日後頃を中心に薬剤防除を行う。
- ・果樹カメムシ類は、山林からの離脱時期が平年より早く、すでに被害が発生している園地がある。定期的に園を見回り、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。

1) 共通事項

- ・チョウ目害虫の発生状況については、病虫害防除所ホームページの「調査データ」(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/201915.html>)に掲載するフェロモントラップへの誘殺状況を参考にする。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。
- ・これから定植するほ場では、病虫害をハウス内に持ち込まないよう健全な苗を使用する。育苗期後半から定植時に登録のある薬剤を使用し、初期防除に努める。
- ・株が大きくなり葉が繁茂すると、葉裏に薬剤が付着しづらいため、薬剤が葉裏にも十分かかるよう注意しながら散布する。

2) 病害

- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める。
- ・ウイルスに対しては、発病株が二次伝染源となるので、見つけ次第抜き取り、直ちに処分する。トマト・メロンでは、ウイルス病抵抗性品種であってもウイルスに感染する。また、他のウイルス病にも罹病するので、媒介する微小害虫の防除を継続して行う。
- ・いちごでは炭疽病菌のまん延を防ぐため、必ず親株ほ、育苗ほの雨よけを行う。頭上かん水は避け、株元へ手かん水を行う。発病株は早期にほ場外に持ち出し、ビニル袋に入れるか、土中深くに埋没処分する。

3) 虫害

- ・ほ場周辺および内部の雑草は、微小害虫の生息・増殖場所となるので定期的に除草する。
- ・いちごでは、ハダニ多発後は防除が困難になるので、早期発見と早期防除の徹底に努める。薬剤防除の際は、効果を高めるために事前に下葉かぎを行う。対策の詳細と薬剤の選定については、令和7年5月1日付け発生予察技術情報第1号(<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/279436.pdf>)を参考にする。
- ・トマトでは、ほ場をよく見回り、トマトキバガによる被害の早期発見に努める。被害葉や被害果実は速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分する。本虫に登録のある薬剤防除を行い、ハウス内の密度を抑制する。対策の詳細や薬剤の選定については、令和8年4月1日付け農業革新支援センター情報「トマトキバガに対する防除対策について」(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/74/240009.html>)を参考にする。

F A X 版はここまで

発生予想の根拠等を含む詳細については、ホームページ掲載の電子版をご利用ください。
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>

IV 主要な病害虫の予想発生量（平年比）と根拠

- ※ 根拠各項に記した先頭の「○」は重視した根拠、「◎」は特に重視した根拠であることを示す。
- ※ 根拠末尾の（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は影響が少ない要因であることを示す。

九州北部地方の向こう1か月（8月29日～9月28日）の気象予報 福岡管区気象台発表

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10%	30%	60%
降水量	40%	40%	20%
日照時間	20%	40%	40%

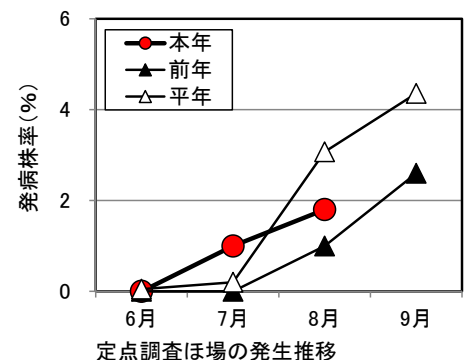
水稻

1) いもち病（穂いもち）

（1）予想発生量 普通期：平年比やや少

（2）根拠

- ◎ 8月の定点調査（20か所）では、葉いもちの発生株率1.8%（平年3.1%）と平年比やや少の発生であった（-）。
- 防除員報告（9地域）によると、8月の葉いもちの発生は平年並～やや少であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みである（-）。

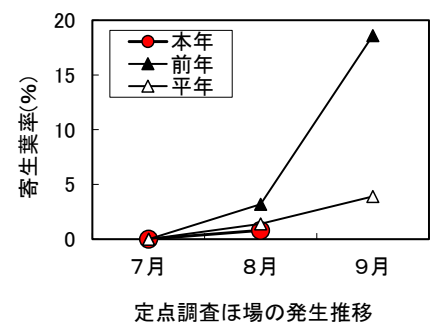


2) 紋枯病

（1）予想発生量 普通期：平年比やや少

（2）根拠

- ◎ 8月の定点調査（20か所）では、発病株率0.8%（平年1.4%）と平年比やや少の発生であった（-）。
- 防除員報告（9地域）によると、8月の発生は平年並～やや少であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高く（+）、降水量は平年並か少ない見込みである（-）。

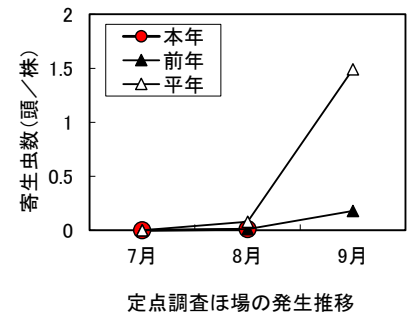


3) トビイロウンカ

(1) 予想発生量 普通期：平年比やや少

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査（20か所）では、0.01頭／株（平年0.08頭／株）と平年比やや少の発生であった（－）。
- 防除員報告（9地域）によると、8月の発生は平年並～少であった（±）。
- 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである（＋）。



4) 斑点米カメムシ類

(1) 予想発生量 普通期：平年並

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査（20か所）では発生が認められず（平年0.0頭）、平年並の発生であった（±）。
- 合志市（生産環境研究所）の予察灯による大型カメムシ類の8月第1～5半旬の誘殺数は、43頭（平年96頭）と平年比やや少であった（－）。
- ◎ 防除員報告（9地域）によると、8月の発生は平年比やや多～並であった（±）。
- 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである（＋）。

大豆

1) ハスモンヨトウ

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

- 8月の定点調査（14か所）では、ヨトウムシ類の食害株率2.6%（平年24.1%）、幼虫数2.1頭／10株（平年2.3頭／10株）と平年比やや少の発生であった（－）。
- フェロモントラップによる7月第5半旬～8月中旬（9月発生の前世代成虫）の誘殺数は、八代市で平年比少、阿蘇市で平年並、山都町で平年比やや少、合志市で平年比少であった（－）。
- ◎ 防除員報告（5地域）によると、8月の発生は平年並～やや少であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みである（＋）。

2) 吸実性カメムシ類

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査（14か所）では発生が認められず（平年0.2頭）、平年並の発生であった（±）。
- 合志市（生産環境研究所）の予察灯によるアオクサカメムシとミナミアオカメムシの8月第1～5半旬の累積誘殺数は、20頭（平年101頭）と平年比少であった（－）。
- ◎ 防除員報告（5地域）によると、8月の発生は平年比やや多～並であった（±）。
- 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである（＋）。

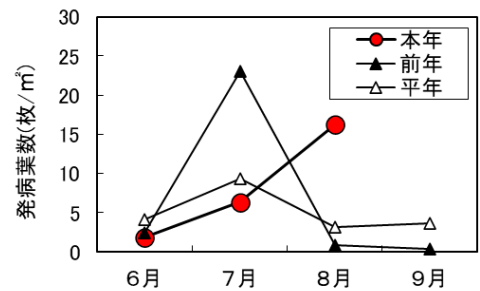
茶

1) 炭疽病

(1) 予想発生量 平年比やや少

(2) 根拠

- 8月の定点調査（8か所）では、一部の園で発生が多く、平均の発病は16.3葉/㎡（平年3.2葉/㎡）と平年比多の発生であった（+）。
- ◎ 防除員報告（4地域）によると、8月の発生は平年並～やや少であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みである（-）。



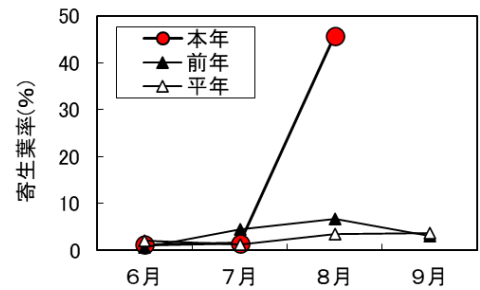
定点調査ほ場の発生推移

2) カンザワハダニ

(1) 予想発生量 平年比多

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査（8か所）では、寄生葉率45.8%（平年3.5%）と平年比多の発生であった（+）。
- 御船町（茶業研究所）の8月第4半旬の調査では、発生が認められず（平年寄生葉率1.8%）と平年比少の発生であった（-）。
- 防除員報告（4地域）によると、8月の発生は平年比やや多～やや少であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みである（+）。



定点調査ほ場の発生推移

3) チャノキイロアザミウマ

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査（8か所）では、寄生葉率2.0%（平年1.5%）と平年並の発生であった（±）。
- 合志市（生産環境研究所）の粘着トラップ調査では、8月第1～5半旬の捕獲頭数が139頭（平年29.5頭）と平年比多の発生であった（+）。
- 御船町（茶業研究所）のたたき落とし調査では、8月第1～4半旬の捕獲頭数が52頭/10か所（平年192.6頭/10か所）と平年比やや少の発生であった（-）。
- ◎ 防除員報告（4地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みである（+）。

4) チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

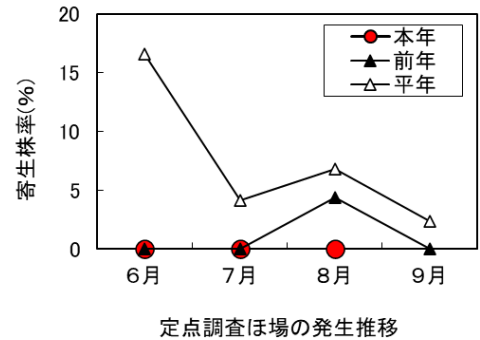
- 8月の定点調査（8か所）では、寄生葉率0.1%（平年0.7%）と平年比やや少の発生であった（-）。
- 御船町（茶業研究所）のたたき落とし調査では、8月第1～4半旬の捕獲頭数が3頭/10か所（平年52.2頭/10か所）と平年比少の発生であった（-）。
- ◎ 防除員報告（4地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- 向こう1月の気温は平年より高い見込みである（+）。

5) クワシロカイガラムシ

(1) 予想発生量 平年比やや少

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査(8か所)では、寄生株は認められず(平年寄生株率6.8%)平年比少の発生であった(ー)。
- ◎ 防除員報告(4地域)によると、8月の発生は平年並であった(±)。
- 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである(+)



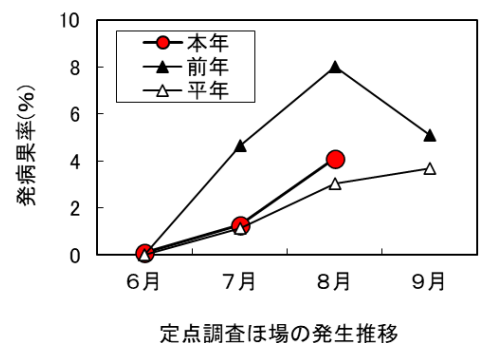
かんきつ

1) 黒点病

(1) 予想発生量 平年比やや少

(2) 根拠

- 8月の定点調査(22か所)では、発病果率4.1%(平年3.0%)と平年並の発生であった(±)。
- ◎ 防除員報告(7地域)によると、8月の発生は平年並～やや少であった(±)。
- ◎ 向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みである(ー)。



2) かいよう病

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

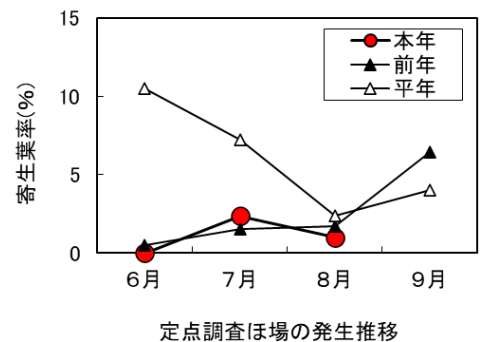
- 8月の定点調査(22か所)では、発病葉率1.8%(平年1.6%)と平年並の発生であった(±)。
- ◎ 防除員報告(7地域)によると、8月の発生は平年比やや多～並であった(±)。
- ◎ 向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みである(ー)。

3) ミカンハダニ

(1) 予想発生量 平年比やや多

(2) 根拠

- 8月の定点調査(22か所)では、雌成虫の寄生葉率1.0%(平年2.4%)、寄生頭数0.3頭/10葉(平年0.8頭/10葉)と平年比やや少の発生であった(ー)。
- 宇城市(果樹研究所)の無防除樹における8月第5半旬の調査では、寄生葉率12.0%(平年8.9%)と平年並の発生であった(±)。
- ◎ 防除員報告(7地域)によると、8月の発生は平年比やや多～並であった(±)。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みである(+)。



4) チャノキイロアザミウマ

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

- 8月の定点調査(22か所)では、被害果率0.3%(平年0.7%)と平年比やや少の発生であった(－)。
- ◎ 防除員報告(7地域)によると、8月の発生は並であった(±)。
- 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みである(+)。

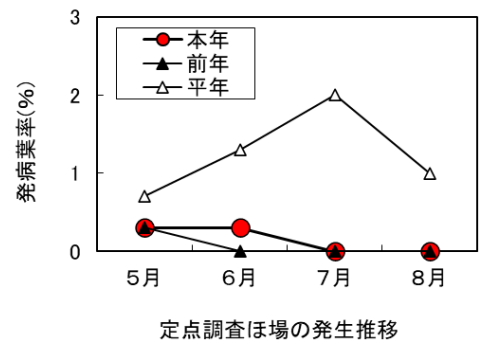
なし

1) 黒星病

(1) 予想発生量 平年比少

(2) 根拠

- 8月の定点調査(6か所)では、発病は認められず(平年発病葉率1.0%)と平年比やや少の発生であった(－)。
- ◎ 防除員報告(2地域)によると、8月の発生は平年並～やや少であった(－)。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みである(－)。

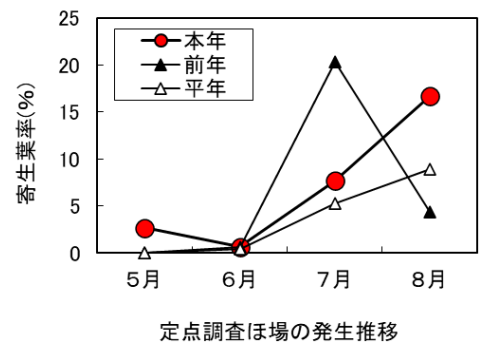


2) ハダニ類

(1) 予想発生量 平年比やや多

(2) 根拠

- 8月の定点調査(6か所)では、寄生葉率16.7%(平年8.9%)と平年比やや多の発生であった(+)。
- ◎ 防除員報告(2地域)によると、8月の発生は平年比やや多～並であった(+)。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みである(+)。



3) ナシヒメシンクイ

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

- ◎ 宇城市のフェロモントラップ調査では、8月第1半旬～第5半旬の総誘殺数13頭(平年26.3頭)と平年比やや少の発生であった(－)。
- ◎ 防除員報告(2地域)によると、8月の発生は平年比やや多～並であった(+)。
- 向こう1月の気温は平年より高い見込みである(+)。

果樹全般

1) 果樹カメムシ類

(1) 予想発生量 平年比多

(2) 根拠

- ◎ 8月の予察灯によるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺数は、合志市と宇城市で平年比多、天草市では平年並であった(+)。
- ◎ 8月下旬のヒノキ球果上の口針鞘数(6か所)は、15.1本/果(平年8.1本/果)と平年比多であった。ヒノキ球果寄生密度は、8月上旬の15.0頭/5枝から8月下旬には3.3頭と低下に転じており、すでに新世代成虫が山林から離脱を開始していると考えられる(+)。
- 防除員報告(11地域)によると、8月の発生は平年比多～並であった(±)。
- 向こう1月の気温は平年より高い見込みである(+)

果樹カメムシ類の誘殺状況(8月第1半旬～第4半旬※)

市町村名	チャバネアオカメムシ			ツヤアオカメムシ		
	本年(頭)	平年(頭)	平年比(%)	本年(頭)	平年(頭)	平年比(%)
合志市※	1474	272	542	1388	177	784
宇城市	2610	1170	223	1337	354	378
天草市	3764	4839	78	2993	1227	244

※8月第1半旬～第5半旬

トマト

1) 灰色かび病

(1) 予想発生量 夏秋作：平年並

(2) 根拠

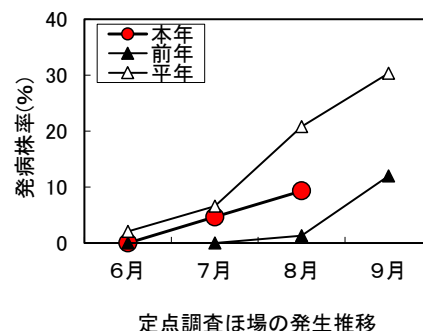
- ◎ 8月の定点調査(6か所)では、茎葉での発病株率13.0%(平年7.4%)、果実での発病株率2.0%(平年0.8%)と平年比やや多の発生であった(+)。
- ◎ 防除員報告(2地域)によると、8月の発生は平年並であった(±)。
- ◎ 向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みである(-)。

2) 葉かび病

(1) 予想発生量 夏秋作：平年比やや少

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査(6か所)では、発病株率9.3%(平年20.8%)と平年比やや少の発生であった(-)。
- 防除員報告(2地域)によると、8月の発生は平年並であった(±)。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高く(-)、降水量は平年並か少ない(-)見込みである。



3) すすかび病

(1) 予想発生量 夏秋作：平年並

(2) 根拠

- 8月の定点調査（6か所）では、発病株率16.0%（平年39.3%）と平年比やや少の発生であった（－）。
- ◎ 防除員報告（2地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- 向こう1か月の気温は平年より高く（＋）、降水量は平年並か少ない（－）見込みである。

4) うどんこ病

(1) 予想発生量 夏秋作：平年並

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査（6か所）では、発病株率12.7%（平年11.6%）と平年並の発生であった（±）。
- ◎ 防除員報告（2地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- 向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みである（－）。

きゅうり

1) ベと病

(1) 予想発生量 夏秋作：平年並

(2) 根拠

- ◎ 防除員報告（2地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- 向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みである（－）。

いちご

1) 炭疽病

(1) 予想発生量 育苗ほ：平年並

(2) 根拠

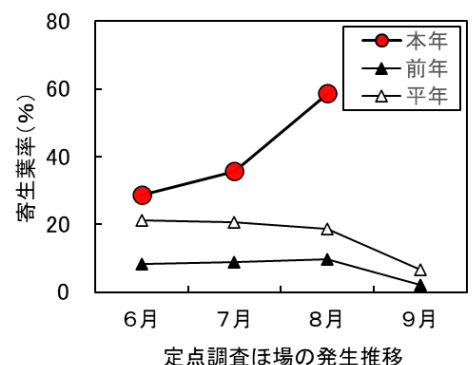
- ◎ 8月の定点調査（3か所）では、発病株は確認されず（平年0.1%）、平年並の発生であった（±）。
- ◎ 防除員報告（3地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- 向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みである（－）。

2) ハダニ類

(1) 予想発生量 育苗ほ：平年比やや多

(2) 根拠

- ◎ 8月の定点調査（3か所）では、寄生葉率58.7%（平年18.7%）と平年比多の発生であった（＋）。
- 防除員報告（3地域）によると、8月の発生は平年比やや多～並であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の気温は高い見込みである（＋）。

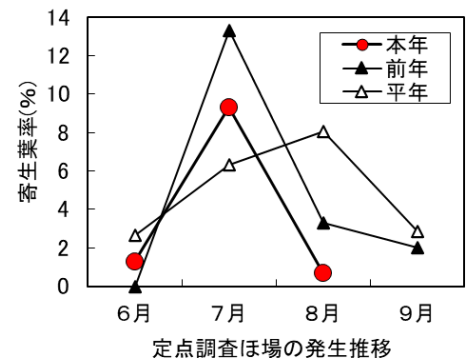


3) アブラムシ類

(1) 予想発生量 育苗ほ：平年比やや多

(2) 根拠

- 8月の定点調査（3か所）では、寄生葉率0.7%（平年8.1%）と平年比少の発生であった（－）。
- ◎ 防除員報告（3地域）によると、8月の発生は平年比やや多～並であった（＋）。
- ◎ 向こう1か月の気温は高い見込みである（＋）。



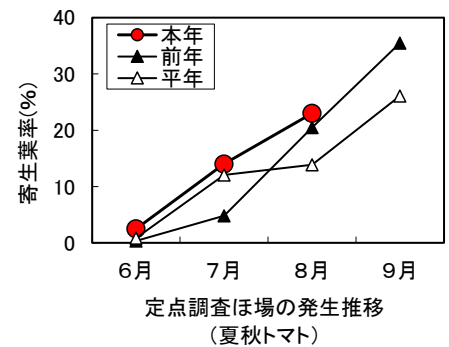
果菜類（高冷地夏秋作）

1) コナジラミ類

(1) 予想発生量 平年比やや多

(2) 根拠

- 8月の夏秋トマトの定点調査（6か所）では、一部のほ場で発生が多く、寄生葉率23.0%（平年13.9%）と平年並の発生であった（±）。
- ◎ 防除員報告（3地域）によると、8月の発生は平年比やや多～並であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである（＋）。



果菜類（平坦地夏秋作）

1) コナジラミ類

(1) 予想発生量 平年比やや多

(2) 根拠

- 防除員報告（5地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである（＋）。

2) アザミウマ類（いちご除く）

(1) 予想発生量 平年比やや多

(2) 根拠

- 防除員報告（5地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- ◎ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである（＋）。

1) ハスモンヨトウ

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

- 8月の夏秋トマトの定点調査（6か所）では寄生株は確認されず（平年0.0%）平年並、いちごの定点調査（3か所）では寄生株率0.7%（平年1.3%）と平年比やや少の発生であった（±）。
- フェロモントラップによる7月第5半旬～8月中旬（9月発生の前世代成虫）の誘殺数は、八代市で平年比やや少、阿蘇市で平年並、山都町で平年比やや少、合志市で平年比少であった（－）。
- ◎ 防除員報告（11地域）によると、8月の発生は平年比やや多～並であった（±）。
- 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである（＋）。

2) オオタバコガ

(1) 予想発生量 平年並

(2) 根拠

- ◎ 8月の夏秋トマトの定点調査（6か所）では寄生株は確認されず（平年0.0%）、平年並の発生であった（±）。
- フェロモントラップによる7月第5半旬～8月中旬（9月発生の前世代成虫）の誘殺数は、八代市で平年比やや多、阿蘇市で平年比やや少、山都町で平年並、合志市で平年比少であった（－）。
- ◎ 防除員報告（5地域）によると、8月の発生は平年並であった（±）。
- 向こう1か月の気温は平年より高い見込みである（＋）。

V 農薬安全使用

農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使うとともに、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守しましょう。

また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう飛散防止を徹底し、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努めましょう。

VI その他

本情報は病虫害防除所のホームページにも掲載しています。

病虫害発生予察情報に関する詳細な内容等については、病虫害防除所（農業研究センター生産環境研究所内、電話096-248-6490）にお問合せください。

ホームページを
チェックだモン！



©2010 熊本県くまモン